

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！  
動画はこちら→<https://youtu.be/d1g7DZiwSV0>



## 連載

### ★学校運動部活動と連携するクラブ★

# NPO法人沖縄健康づくり協会 ダブルピース 沖縄県糸満市

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5年度から令和7年度までを「改革推進期間」と位置付け、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう、各自治体に求めています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

## 1

## クラブ概要

### 運動(スポーツ)で笑顔あふれる元気で明るい街づくりをめざして

沖縄健康づくり協会ダブルピース(以下ダブルピース)は、市健康づくりセンターを管理運営するため、健康運動指導士、スポーツ推進委員、健康推進ボランティア、教育有識者(校長経験者)等により設立された総合型地域スポーツクラブです。

クラブの理念は「運動(スポーツ)で笑顔あふれる元気で明るい街づくり」。

### ドッジボール(小学生)、ハンドボール(中学生)、高齢者には一般介護予防教室を開講

事業実績としては、平成26年度から市健康づくりセンターの管理運営を受託し、教室は高齢者を対象とした一般介護予防教室を9教室開催しています。児童・生徒向けには、スポーツ少年団2団体を運営し、一年を通してスポーツ活動の場を提供しています。

種目としては小学生がドッジボール、中学生はハンドボールを行っています。それぞれ20~30人で、週4~5回、2~3時間程度の活動をしています。一般対象のサークルでは4団体が活動しています。その他には、委託事業が2件、指導者派遣が9件あります。また、イベントでは、自治体の後援を得て県外ドッジボールチームと県内チームとの交流大会を企画・実施しました。



県外チームを招いてのドッジボール大会



介護予防教室

## 2

# 運営はクラブ主導、教員は連絡調整など 業務分担し負担を軽減

### 子どもたちのリクエストを学校に伝える形で部活動化が実現

令和元年度、地域の子どもたちから「中学校では小学校でのドッジボール経験を生かして、部活はハンドボールをやりたい」という声が上がりました。ところが当時、進学する中学校にはハンドボール部がなかったため、保護者数名と一緒に、どうかハンドボール部を立ち上げてもらえないかと、校長へお願いしました。しかし、中学校では生徒数の減少に伴い教員の数も減り、教員一人が複数の部活顧問を掛け持ちしていたり、生徒数に対して部活動の数が多く、部員が分散してしまい、試合人数ギリギリで活動している部が存在しており、これ以上部活数を増やすことは難しいとの回答でした。

半ば諦めかけていたところ、校長から「部活動としては難しいが、保護者や地域の方を中心にスポーツ少年団として活動してはどうですか」と提案をいただいたのをきっかけに、クラブで中学生を対象としたハンドボールクラブを結成することになりました。ありがたいことに1年目から同好会として引率の教員をつけていただき、中体連(日本中学校体育連盟)の大会にも参加させてもらいました。それが子どもたちのモチベーションアップにつながり、活動することができました。

年間を通して安定した活動ができたことが認められて、令和3年度からはチームの代表指導者に部活動指導員が委嘱され、引率教員なしでも大会参加ができるようになり、令和4年度からは正式に部活動として認められました。通常は学校内にある部活動を地域移行へと推進する流れですが、我々のケースは学校にないハンドボールを地域で結成・運営して、それを学校側が部活動として認めるというまれなケースだと思えます。

一見、逆行しているように思われますが、チーム運営はクラブ主導で行い、顧問はチーム代表が部活動指導員として担うことで、副顧問(担当教諭)の参加は週1~2回程度でよいため、学校業務を優先してもらうことができています。なお、教員には主に子どもたちの学校での様子や学校側との連絡調整の役割を担っていただいています。

### 学校連携に向けた主な取り組み

#### ①クラブ主導でのチーム運営

練習日程や会場確保、指導者調整、練習試合調整、用具の管理、登録業務等の運営業務をすべてクラブ側が担っているため、教員の負担軽減につながっています。また、担当教諭は毎年変わりますが、主体がクラブなので安定したチーム運営をすることができています。

### 指導者、財源、活動場所の確保方法

#### ●指導者

立ち上げ当初は、中学校のPTA役員で市内高校のハンドボール部の外部コーチをしている方が、高校の指導と兼務で引き受けてくれました。また、市教育委員会に相談したところ、市体育協会ハンドボール専門部長を担っている職員を紹介していただき、当クラブから打診をしてコーチを引き受けていただきました。現在は、この立ち上げから参加している外部コーチの方とハンドボール経験者の保護者の方にコーチとして携わっていただいています。

## ●財源

100%保護者からの年間費(4,000円/登録料、保険料)と月会費(3,500円/使用料、用具代、積立金、管理運営費)で賅っています。主な用途は体育館使用料、協会登録料(チーム、選手、指導者)、スポーツ少年団登録料、スポーツ安全保険料、ボール代、積立金(ユニフォーム代)、クラブ管理運営費になっています。チーム発足のきっかけが子どもたちのハンドボールへの思いだったので、会費を徴収することに関して反発はありませんでした。

## ●活動場所

学校の体育館や運動場は他部活動で埋まっていて使用することはできませんでしたが、学校から徒歩10分ほど離れたところに公共体育館があり、平日の16時半~18時半で使わせてもらっています。しかし、正式なハンドボールコートがないため、休日は隣町の体育館へ出向いて活動しています。

## ②部活動規則に則った活動

練習時間や頻度、テスト休みなど中学校が定める部活動規則に準じて活動することにより、学校や保護者に安心感を与えることができ、それが信頼へとつながりました。

## ③定期的に校長先生へ活動状況を報告

校外で活動していて活動の様子が見えにくいいため、クラブの指導者が月1回程度のペースで学校に訪問してじかに近況を伝えることにより、学校に安心感を与えることができています。

## ④学校生活とリンクさせるため担当教諭(副顧問)をつけてもらい情報共有

平日休日ともに地域指導者が指導をしているため、副顧問の先生には業務を優先していただき、週1~2回程度時間があるときに部活動に参加してもらっています。教員とは常に連絡を取り合い、生徒の学校や練習中の様子を共有し、連携して生徒一人ひとりを包括的に育み、矛盾がないよう情報共有しているので、生徒たちは迷うことなく安心して活動できるようになりました。

## ⑤部活動指導員に任命

クラブの指導者が学校長から推薦を受け、教育委員会から学校部活動指導員に任命されることで、学校との連携がとりやすくなり、保護者への安心感につながりました。

## 取り組みに対する課題点

- 公共体育館の予約は一般利用者と同じく、前月の抽選による申請になるので、場合によっては借りられないときがある
- 他部活と比べて経済的負担が大きい
- 月会費はほぼ体育館使用料とボール代に充てるため、指導者は無償ボランティアとなっている
- 活動場所が校外のため、生徒へ活動の様子が見えづらく新入部員がなかなか増えない
- 指導の質確保のため、指導者の公認指導者資格の取得が必要だと考えている

**3**

## 学校や地域と連携して生徒たちのニーズに応えられる活動を

### 市内全域の中学生が参加できる地域部活動へシフト

社会的には学校部活動を地域へ移行する動きのなか、当クラブは地域クラブ(スポーツ少年団)が学校部活動になるまれなケースではありますが、今年度からクラブチームも中体連の大会に参加できるようになり、今後は市内全域の中学生が参加できる地域部活動にシフトしていこうと思っています。そのときは、教育委員会に仲介していただけると学校との連携がスムーズに進むため、教育委員会の信頼を得られるよう、日本スポーツ協会の登録・認証制度において、「認証」の運用が始まった際には、その取得をめざしたいと思います。

市内全域の中学生を対象とする地域部活動の取り組み方として、休日は従来どおりの対面練習で連係プレーなどのチーム練習をメインに、平日については、練習会場近隣の生徒は対面で練習を行い、送迎が難しい生徒は、オンラインを活用した練習を行うことも検討しています。具体的には、対面練習と同じ練習メニューを学校ごとに実施してもらい、その様子をモニター越しに指導者が助言するスタイルや、場所や人数により同時開催が難しい場合は、指導者から課題を与え、それを動画撮影して指導者が見て助言する「動画による活動日誌」も行っていきたいと考えています。

### 会費に見合う質の高い活動への工夫

また、学校部活動と地域部活動の経済的負担の格差に対する取り組みでは、会費に見合う活動内容となるよう、競技練習だけでなく、下記のような取り組みを行い、質の高い活動になるよう工夫しています。

#### ①プロ選手による技術指導

これまで地元のプロハンドボールチーム「琉球コラソン」の講習会を20回程度実施。

#### ②各種講習会(運動・栄養・休養)の実施

クラブと整形外科クリニックが提携して、ハンドボールクラブの生徒に月1回ペースでスポーツトレーナーによるケガ予防のための講習会や管理栄養士による栄養講演会実施。今後はテーピング講習会、救急法講習会、保護者向けにも栄養講習会を取り入れる予定。

#### ③地域伝統行事への参加

「糸満市少年少女ハーレー大会」(爬龍船競漕)にチームで参加体験。

#### ④ボランティア活動

プロハンドボール公式戦の会場設営や得点係など補助員を担いスポーツを「やる」側ではなく「支える」側としての参加体験。

#### ⑤レクリエーション活動

今後はマリンスポーツやパラスポーツをはじめほかの種目を体験することで生涯スポーツにつながる活動を実施していきたい。



プロ選手による指導



スポーツトレーナーによる講習会



地域伝統行事(爬龍船競漕)への参加

## スポーツを通じて社会性を身につけ 生涯スポーツに親しめるような活動を提供

経済的な理由で部活動から外れる児童・生徒が出ないように、新たな財源確保として地域企業からの協賛金、PTAや自治会から部活動への支援金協力体制を構築していきたいと考えています。

我々のクラブが運営する地域部活動は、好きなスポーツ活動を通して社会性を学ぶ場と位置付け、いろいろな活動体験を通して生涯にわたってスポーツに親しむ人材の育成を目的としており、今後は「専門の指導者が欲しい」「部員数が足りなくて試合ができない」「やりたいスポーツがあるけど部活がない」など、そういった生徒たちのニーズに応えられる活動を学校や地域と連携して取り組んでいこうと思います。

NPO法人沖縄健康づくり協会ダブルピース 理事長 大城 敦



## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成25年8月29日（平成25年12月25日 法人登記）

**所在地** 沖縄県糸満市

**運営** 会員数：186名（令和5年5月現在）、予算規模2,300万円（令和5年度）

**特徴**

- ・市内公共健康づくり施設の指定管理を担うクラブ
- ・健康運動指導士がいるクラブ
- ・児童・生徒から高齢者の運動を支援するクラブ
- ・行政と連携した市民の健康づくりを支援するクラブ

**連絡先** 〒901-0306

住所：沖縄県糸満市西崎町3丁目179番地

糸満市健康づくりセンター願寿館内

TEL：098-840-8225 FAX：098-840-8330

HP：現在リニューアル中

E-mail：o\_atsushi\_genki@yahoo.co.jp

